

令和6年度安曇野市教育委員会 8月定例会会議録

日 時：令和6年8月27日（火）午後1時30分

場 所：安曇野市役所3階 会議室301

<出席者>

教育委員：教育長 橋渡勝也、教育長職務代理者 遠藤正志、教育委員 二村美智子、

教育委員 羽田野賢二、教育委員 川北久美

事務局：教育部長 洞武志、学校教育課長 上條貴芳、学校給食課長 西澤弘修、

生涯学習課長 二木正、文化課長 三澤新弥、子ども家庭支援課長 山越寿彦、

こども園幼稚園課長 佐々木真貴、学校教育課教育指導室長 山口隆志、

書記：学校教育課教育総務係長 高橋満

傍聴者：傍聴人 3名

◎開 会

教育部長 定刻になりましたので、ただいまから安曇野市教育委員会令和6年8月定例会を開会いたします。

◎教育長あいさつ

教育部長 それでは、橋渡教育長、ご挨拶をお願いいたします。

教育長 それでは、8月定例会の開会に当たり、ご挨拶を申し上げます。

学校にも元気な子どもたちが戻ってまいりました。このところ不安定な天気が続いておりますが、24日には第33回信州安曇野薪能を、朝の段階で屋内開催を決定し、明科体育館で当一流の能楽師の皆さんによる日本の伝統芸能の世界をご堪能いただきました。

さて、今月18日、福岡市で7歳と5歳の姉妹が亡くなる交通事故が発生いたしました。死亡原因は、事故の衝撃によるシートベルトの締めつけが要因と報じられております。日本自動車連盟では、6歳の誕生日を過ぎても、大人用シートベルト使用の際、身長150センチま

ではチャイルドシートやジュニアシートを適切に使用するよう基準を見直すと伝えられております。改めて、慎重な安全運転と子どもを同乗させる親や大人の責任を痛感した出来事でございます。

本日は、安曇野市の子どもたちの命と安全を守るための交通事故0「ゼロ」プロジェクトの取組みについて、新たな提案も盛り込まれております。ご審議のほどよろしく願いいたします。

◎発議による非公開案件の決定について

教育長 それでは、本日の会議事項における公開、非公開についてお諮りいたします。

教育委員会の会議については、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第14条第7項において、教育委員会の会議は公開する。ただし、人事に関する事件、その他の事件について、教育長または委員の発議により出席委員の3分の2以上の多数で議決したときは、これを公開しないことができると規定されております。

本日の協議事項、報告事項について、安曇野市情報公開条例第5条第1項第2号に規定する個人に関する情報で、特定の個人が識別され、または識別され得るもので、個人情報の保護に該当する案件として、議案第3号、報告第2号、第7号、同条例第5条第1項第5号に規定する自治体の実施機関等の内部における審議、検討または協議に関する情報で、公にすることにより率直な意見の交換または意思決定の中立性が損なわれる案件として、報告第8号、以上4件を非公開とするよう発議いたします。

このことに関して、委員からご意見はありますでしょうか。

(発言する者なし)

教育長 ないようですので、議決に移ります。

それでは、先に申し上げました議案1件、報告事項3件について、非公開とすることに賛成の方の挙手をお願いします。

(賛成者挙手)

教育長 ありがとうございます。3分の2以上の挙手がありましたので、本日の会議において非公開とする案件は、議案第3号、報告第2号、報告第7号及び第8号と決定いたしました。

会議の順番につきましては、議案第1号、第2号、第4号、報告第1号、第3号から第6

号を公開とし、以後、会議を非公開として、残りの議案を扱います。

なお、議案第4号に関わる申請書は、個人または法人に係る情報が記載されているため、非公開といたします。

◎議案第1号

教育長 それでは、協議事項に入ります。

議案第1号について議題とします。

説明をお願いします。

教育部長 教育部全体に関わることは私のほうから説明をさせていただきますが、個別具体的な案件につきましては、各担当課長から説明並びにお答えをさせていただきますのでお願いいたします。

それでは、第1号議案について、学校教育課長から説明をさせていただきます。

学校教育課長 「令和6年度交通事故0「ゼロ」プロジェクトについて」資料により説明。

教育長 では、ただいまの件について、ご意見、ご質問がございましたらお願いします。

遠藤委員 内容的には非常に大事な中身で、やっていかななくてはいけない中身の上に、今年お話しがあったようにさらに2点、昨年度にないことをやっていただけるということで、非常にありがたいなというふうに思っています。

それで、その2点の中の一つの市役所への横断幕というのを具体的なものをちょっと知りたいのですけれども、よく高校が全国大会に生徒が出場すると、校舎のところに大きな横断幕を掲げますけれども、あれと同じイメージでよろしいのかということと、もう1点は、こういう取組というのは別に数字とか、そういうのでの成果を求めたりするのはちょっと質の違う、もっと意識の向上といいますか、意識づけという点で大事な点だと思いますけれども、令和2年度からこういう取組が行われているということですので、もう3年、4年たっているのですけれども、何か成果みたいなものが、これを行うことによって今まであったかどうか、具体的な交通事故の件数というのもちょっと何か分からないのですけれども、もしあれば教えていただければと思います。なければないで、または今手元に資料がなければないで、先ほど言ったように数値とかそういう問題の中身ではありませんので、結構ですので、もしあれば教えてください。

学校教育課長 まず1点目の横断幕のイメージというところですが、遠藤委員がおっし

やるように、こちらのベランダのところに、よく中学校とか高校で全国大会に出たみたいなのを、ああいうもののイメージをしていただくということがまず1点目です。

横断幕に書く内容とかについては、担当が今検討をしているというところですので、これからまた中身をしっかり詰めた中で横断幕の作成に取りかかっているというふうにご覧いただいております。

それから、具体的にこのプロジェクトを始めてからの成果というか、指標の結果みたいなところなのですが、具体的にどうというところの部分は、正直申し上げて出ていないというところが私の見てとれているところがございます。ただ、ポスターであったりとかというのは、少なくとも私がこの現場の、この学校教育課に来る前には、ポスターとかがあったりとかというのは庁舎の中で見たこともありますので、そういった部分では多少なりとも見ていただいているというような成果があるのではないかと個人的には思っているところがございます。そんな回答でございますので、よろしくお願いいたします。

遠藤委員 ありがとうございます。

いろいろな公共施設のところにも今までも掲示されていたのを私自身も見て、ちょっと気をつけなきゃなというふうに思ったり、運転していても速度をちょっと、この期間は、なんて言うてはいけないのですけれども、抑えようかなとか、そういう交通安全に関する意識が今までとはちょっと違うものになっていますので、非常に大事なことだと思いますので、よろしくお願いいたします。

教育長 他にございますでしょうか。

羽田野委員 成果ということでお話しいただいた中で、昨年から児童・生徒に交通安全クイズ、端末を使ってやったということなのですが、知識とか、交通安全のことを認識してもらうにはすごく大事なことだというふうに私も思うので、いい取組だと思うんですが、これについて昨年の実績として、全児童・生徒が確実にそのクイズに答えたのかどうかということは把握しているのでしょうか。

学校教育課長 ご意見の中で、その実績というか、子どもたちの統計的な数字という部分では、あいにくのところしっかり確認をしていないというところが現状でして、その部分は反省すべきだと思います。今回については、その部分まで含めて対応を考えて、どの程度回答をいただけたのかというところは必要な部分かと思っておりますので、担当のほうにしっかり伝えた上で、実際の成果として数字を持っていきたいというふうにご覧いただいております。

羽田野委員 それで、親子で交通安全を考える機会を今回設けるとするのは、これもすごく大

事なことだと思えます。何か資料とか、パソコンを見ながらやるような形になるようですけども、どのようにして親と子が交通安全を考えるというようなPRをしていくか考えはあるのですか。

学校教育課長 今回、親子という部分での初めての取組になるものですから、具体的にこういうふうになればいいと、要は交通安全の啓発に関わる、例えば交通安全のルールであったりとか、そういった部分をしっかり学んでいただくということが今、担当の願いであり、そういう部分を質問にしていこうというふうに考えているところがあります。そういう部分を、主に啓発という部分も含めた中で対応していきたいというのが今、私どもで考えているところですので、その中でクイズでしっかり親子共々に、交通ルールというものがこうなんだよというところを学んでいただく機会になればというところでの願いもあって、こういう形をやっていききたいという思いもございます。

羽田野委員 すみません、続けてになりますが、そうすると、親の方には何かお便りか何かを出して、こういうことをやりますよというようなPRをしていくということになりますか。

学校教育課長 当然のことながら、親が知らなければそのまま流れてしまうというところになりますので、少なからずその周知については努めていきたいというふうに思っていますので、お願いいたします。

教育長 他にございますでしょうか。

川北委員 ポスターの掲示なのですけども、市内の教育図書館等教育施設とあるのですが、親がよく行ったり、地域によっては行く場所の中で、児童館に子供連れで来るお母さん、保護者の方とかが見る場所とかにもするとか、そういうのを聞きたいです。

学校教育課長 この資料の中では、公立の図書館であったりとか、教育施設というところでお願いをするわけです。ご意見いただいた児童館であったりとかということも、当然その教育施設という中には含まれるかと思えます。施設の管理のほうには、私どものほうからお願いに上がる形で、できる限り協力をいただきたいということで要請をかけていきたいと思っておりますので、できることなら児童館などを全て網羅できる形で対応は考えていきたいと思っております。

川北委員 ありがとうございます。

二村委員 学校では例年、安全に通学できるようにということで、一緒に登校下校するお友達や、周りの人に注意すること、そしてまた、もちろん車にも注意すること、気をつけること、そして、自分の命を守ることを主に交通安全のルールを教えているわけですけども、

今回これを機に、さらに学校での新たな取組は何か検討されていますでしょうか。

学校教育課長 ご質問いただいた内容で、特に学校のほうとの連携というのは、ちょっと正直なところうまくとれておりません。ただ、学校のほうでも当然のことながら交通安全に関わるルールの教えだとか、交通安全教室的なものは実施しているというところを聞いております。また、学校に限らず、地域のほうでも交通安全に関しては、年度の初めであったりとか、そういう機会で行っているというところは見えてとれておりますので、そういった機会の中でということで今現状では考えております。

二村委員 ありがとうございます。交通事故0「ゼロ」プロジェクトということですが、不審者であったり、また、動物との遭遇であったり、大荒れの天気であったりと、いろいろな安全確保のためのことを考えなくてはいけないと思うんですけれども、日常的に事故がなくなればなというふうに感じています。

学校教育課長 ご意見をいただきましてありがとうございます。本当に交通事故に限らず、学校の登下校の際には様々な危険が伴うというところがあります。子どもたち自身も、登下校の際には気をつけて歩いているというところは当然あることだと思います。ただ、突発的に何かあるということがあってはならないので、私どもも見守りということは続けていきたいと思っておりますので、お願いいたします。

教育長 他にございますでしょうか。

(発言する者なし)

教育長 それでは、私から最後に一言申し上げたいと思います。

令和2年にこのプロジェクトが発足したときに、全国で交通事故が非常に多く発生していて、県内でも交通死亡事故が多かった年と記憶をしております。

市民の方から、今日傍聴されている方でございますけれども、長野県が交通死亡事故を減らすという目標を掲げたときに、前年度の人数より減らして何人に抑えるという発表があったということに関して、大変憤りを持って私にその話をしてくださいました。目標として人数が減ればよいということは、1人でも2人でも交通事故に遭っていいという捉え方だってできるじゃないかと、そういう趣旨だったと思うんですけれども、私はその言葉に非常に共鳴をいたしました。日頃から、この会議でも児童・生徒の学校事故、交通事故についてもご報告をさせていただいているわけですが、たった一人であっても、その子が重大な生涯を通じて何か影響を及ぼすような精神的なこと、肉体的なこと、うんと大きなことになる可能性だってある。だから、そんなことは1件でもあってはいけないなど、私は改めてそこ

で強く思ったのです。それで、この名称をゼロと、交通事故はゼロにすべき、ゼロを目指すべきだという強い思いを抱いて、そのときにこのプロジェクトが発足したわけです。

単なる交通事故がなければいいということは誰だって思うのだけれども、交通事故の当事者になってみれば、被害者もそうだけれども、加害者にとってもこれは一生忘れられない大きなショックであるはずですよ。お互いに大なり小なりそういう経験をしているわけで、だからこそ私は、子どもの命を守るゼロプロジェクトであるべきだということで、続けてまいりました。

先日も校長会がございましたけれども、私はその席上も、校長先生たちに申し上げたのは、そういう願いが込められているこのプロジェクトなので、市がやるからやるんだということではなくて、きちんと学校では学校なりの取組を一緒にやってほしいと、こういうお話をさせてもらいました。先ほど学校との連携はどうなんだというお話がありましたが、一応市ではこういう共通したものを掲げてはいるけれども、学校は目の前の子どもたちの通学の状況をしっかりと把握している、そういう現場ですので、それぞれの学校のそれぞれの子どもに合った取組を一緒になってやって、悲しい思いをする子が一人もいない、ゼロを目指すんだということを、今年もしっかりとこの時期にやっていきたい。

もう一つ申し上げたいのは、今回この標語を三つ掲げてありますけれども、今年担当になった係長が私にこんなことを言いました。大変正直な方だと思いますが、「私は子どもがいて、去年までこの取組をやっているということを、保護者でありながら知らなかった」と、正直に私の前で言うてくれました。でも、この取組を自分が任されて、今年やるということになったときに、これはうんと大事なことから、私も一緒になって取り組もうということ、本当にその担当が我が事としてこれを捉えて今回の提案をしてくれたわけです。そういう中から生まれたのが親子による取組だと。要するに、その方も一保護者であって、これを通して我が子とどういふことを学んだら本当にこのゼロを目指すのかということ、今回のこのプロジェクトに込めてくれたというふうに私は思っております。

ですので、今、一生懸命具体的な内容を詰めているのですが、例えば、QRコードをつけて、親子でそこから入って、いつでも見られるとか、様々な工夫を今考えております。また具体的になったところで、もっとこうしたほうがいいのかございましたら是非ご意見をいただければありがたいなど、そんなふうに思っております。

成果として、当然数字的なものでゼロであればいいという願いではございますけれども、一人一人にとって交通事故がない、それが当たり前だというような意識が定着すれば、これ

が大きな成果になるんじゃないかなと、そんな願いを持っているということで、少し長くなりましたけれども、思いを話させていただきました。

それでは、今回提案の議案第1号 令和6年度交通事故0「ゼロ」プロジェクトについては、承認ということでよろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

教育長 ありがとうございます。議案第1号は承認いただきました。

◎議案第2号

教育長 続いて、議案第2号を議題といたします。

説明をお願いします。

学校教育課長 「令和5年度事業に係る教育事務の点検評価について」資料により説明。

教育長 では、ただいまの件について、ご質問、ご意見がございましたらお願いします。

遠藤委員 内容が非常に多岐にわたってものすごい資料ですので、全部細かくというところまでは正直言って見られなかったのが、申し訳ないくらい評価委員の方々のご苦勞というのが分かるのですが、一つ評価の関係で、83ページにある市誌の編さん事業の評価だけDの非常に厳しい評価がされているわけですが、資料のところを見ると、D評価というのは事業の根本的な見直しが必要という評価がDになっているのですけれども、だけれども、この評価のいろいろな評価とか文章を読んでも、事業自体は必要な事業となっていますし、ただ、今後の課題としては、事務局の体制とか、専門委員への、調査委員へのケアとか、そんなようなことが課題というふうになっていますので、イメージとしてはDの事業の根本的な見直しというよりもCじゃないのかなということを私は思ったのですけれども、事務局の今後、この事業は必要なだけれども、今後事務局の組織、体制のところをもう少し考えていきたいということになれば、DよりもCじゃないのかなというふうに思いましたが、そこら辺のところをまたちょっと教えていただければということが1点。

それと、これはちょっと確認しておいていただきたいのですが、資料5ページに一覧がありますよね、評価の。その番号で言うと15番と16番の評価が、15がAで16番がCになっていますけれども、これはその後の具体的な評価のところの41ページと43ページを見ると、15番はAではなくてCで、16番はCではなくてAじゃないですか。

文化課長 まず、83ページの市誌編さん事業に関する評価につきましてご説明いたします。

ご意見ありがとうございました。この評価につきましては、実は妥当性、有効性、効率性を選択するという中で高か低しか選択肢がありません。この3項目につきましては、評価の理由がそこにありますが、妥当性は高い評価ということなのですが、有効性と効率性がここにある理由によりまして低い評価とせざるを得ない状況にあります。この3項目が、この場合は高、低、低となるのですが、この評価をしますと、このシステム上だと総合評価でDになってしまうこととなります。このシステムがこのような仕組みになっているというところが一つあるのですが、確かに今、博物館担当のほうでこれを行っているのですが、なかなか膨大な市誌編さん事業であります。いろいろな項目も多岐にわたっておりまして、着手すればまたさらに深く掘り下げていかなければいけないということもありまして、なかなか思うようにこの業務が進んでいかないということもございまして。私どもとしては努力もしておりますので、C評価としたいところではあります。正直に入力しますとこうになってしまうというところがございます。D評価ということで、これを上げるよう、よりよい方向に進めていきたいと考えているところです。

学校教育課長 遠藤委員ご指摘のとおり、誤りでございまして大変失礼いたしました。5ページの評価書、遠藤委員のほうでお話いただいた15番と16番の評価については、逆になりますので訂正をいただきたいと思っております。大変申し訳ございませんでした。

遠藤委員 ありがとうございます。

教育長 他にございますでしょうか。

二村委員 本当に毎年細かな作業と、そして、結果を求めなくてはいけないということで大変なことだなというふうに思いますが、61ページの家庭、地域との連携の推進ということでコミュニティスクール事業があります。学校訪問に行きますと、各学校で「地域の方々の協力をいただいております」と校長先生などからお話を伺っています。

その中で、ここに書いてありますように、認知度が低いであるとか、課題のところにあるのですけれども、地域住民の事業に対する認知度が低く、積極的な広報が必要である。広報はすごく大切だなと思うのですけれども、これは何か毎年言っているような気がするのですけれども、本当に事業効果を高めるとか方策を検討というふうになっていますけれども、有効性が低いというところに私は少し違和感があるというか、私は有効性というこの評価の仕方がちょっとよく分からなくて、このところの説明をいただきたいなと思っております。

学校教育課長 まず、コミュニティスクール事業の、二村委員がおっしゃられるとおり、認知度というところが十分地域の住民の皆様には広がっていない。こういうものがあるんだとい

うところの広報的なものというのは、ちょっとなかなか広がり薄いところ実情でございます。

まず、評価のところの有効性の部分ですが、これはやはり高いか低いかというところの基準しかなくて、決して高いところの位置づけが言えないところで、低いという評価にどうしてもせざるを得ないのかなというところがあります。有効というのはコミュニティスクール自体は非常に高いものであると私自身は思うところでございますが、地域のほうへの周知という部分について、やはり何かしらの施策を考えなければいけないところをずっと思っているだけで、具体的なものが見えてこないというのがありまして現状に至っているところでございます。その中で難しさを痛感しているところでございます。そういった中で、有効性という部分については、担当の評価、私の評価として低いという位置づけになってしまうのかなというところでございます。ちょっとお答えがしっかりできない部分があって申し訳ないのですが、以上のような形でございます。

二村委員 ありがとうございます。学校側というか、現場での評価が高いというふうに私は感じているので、この妥当性、有効性、効率性、先ほどから高いか低いかとなっているのが、パーセントで出すとか、何か違う方法があるのではないかなという思いがします。

学校教育課長 ご意見いただきましてありがとうございます。

まず、活動指標の部分がどうだというところの目標になるので、その部分の目標という部分を改めてもう一度見直すべき部分があるのかなというふうに思いますので、今のご意見いただいたところを参考にして、また考えていきたいと思えます。ありがとうございます。

教育長 他にいかがでしょうか。

遠藤委員 今日頂いた資料の第4、外部評価者の意見という紙の上から2番目、入学準備金の貸付事業、23ページの部分なのですが、これは外部評価者の意見というか、お考えなので、評価者に聞かないと分からないことかもしれないのですが、そのところに将来安曇野市への貢献を約束するような形で給付したりする等の工夫が必要と書いてありますが、いろいろなことがあって、もっとこの制度を利用してもらいたいだけでも、なかなか数的に伸びてこないで、もう少し緩和をしてという方向で市はいるのですが、この安曇野市への貢献を約束するような形ということになると、これはむしろ逆行するようなイメージ、こういう縛りがあるんだったらやめようとか、そんなふうなイメージも持ってしまうがちな文言になっているのですが、こちら辺の何かこれを出していただいた方の、お気持ちは分かるのですが、何か具体的なものというか、要望といいますか、そんなようなも

のはあるのでしょうか。

学校教育課長 ご意見ありがとうございます。外部評価者の意見では、確かにこのとおり、要は学校を出て戻ってきてという部分、確かにその意見というのもあります。遠藤委員がおっしゃるように、これをやっちゃうと縛りがどうしても生じてしまうというところがあるので、こういう部分を、例えば規則であったりとか、そういうところに入れてしまうというところはちょっと避けなければいけないのかなというところは、私個人的には思っているところがございます。

意見として、今までもこういった事例というところはあまり聞かなかったもので、一つの意見として今回捉えさせていただいて、今後の改定をするというものがあれば、何かしら考えていくということも必要なのかなというふうに、意見をいただいた中で感じたところでございます。

遠藤委員 分かりました。ありがとうございました。

教育長 他にございますでしょうか。

川北委員 本日配っていただいた外部評価者の意見のところ、97ページの一番下のほうですけども、子どもと関わる活動の中では、病気に関わる心ない発言をすることがある。嫌な思いをしても注意できない。この嫌な思いをしてもという、これは外部評価者の方自身のことですか。そうなのかと思ったのですが、ちょっとここにこれを書いてあったのは、この意識を持っていかなければならないということ、書いて、触れてあるのかなと思ったのですが、すみません、ちょっと教えてもらいたいです。

生涯学習課長 人権教育推進事業の地区公民館での人権学習会というものは生涯学習課のほうで所管しております。今、川北委員がおっしゃられたように、この文面からすると、この評価者の方がそういうことを体験されたことをここに書いているというふうにとれますので、具体的にどういうことが不快に思われたかはちょっとお話を伺っておりませんので何とも言えないのですが、こういったところを、また各地区の人権学習会でも気をつけていただくように注意喚起はしていきたいと思えます。

川北委員 ありがとうございます。

教育長 他にございますか。

羽田野委員 まず、教育部が、このように多岐にわたる多くの事業を行っていることに、改めて重要な役割を担っていただいているんだなというふうに思いました。同時に、職員の皆さんの日々の業務におけるご尽力に改めて感謝いたします。

既に外部評価者の皆さんにご指摘等をいただいておりますので、内容についてはあまり言うことはありません。それぞれの事業で成果ですとか課題が示されているので、本年度はこの課題を解決するための目標が立てられて、実行を既にしていただいているというふうに思います。

その上で、できればなかなか予算を見ることはあまりないものですから、それぞれの事業に対する今年度の予算というものをを見せていただければうれしいなというふうに思います。なぜかという、前年度の事業の課題解決に向けて、今年度はどのように予算づけされたのかということが分かると思いますので、今年度の予算が分かるものをらせていただければというふうに思いますので、ご検討いただければと思います。

学校教育課長 ご意見いただきましてありがとうございます。

決算については、その評価シートの裏面のところに、どんな項目についてというところが費用面があるのですけれども、では実際にその予算がどういうものというところが、あいにくこの評価では出てこない形になりますので、内容部分についてそこまで可能かどうか、要はこの評価シートというものの自体がシステムで入っちゃっている部分があるものですから、具体的にここから変えたいというカスタマイズというのがなかなか難しいところが正直ございます。なので、もし予算をつけるということであれば、後づけで何かしらの施策を担当の中で共有させて考えていきたいというふうに思っておりますので、お願いしたいと思います。

教育長 他は特段ございませんでしょうか。

(発言する者なし)

教育長 それでは、議案第2号 令和5年度事業に係る教育事務の点検評価については、承認ということよろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

教育長 ありがとうございます。議案第2号は承認いただきました。

◎議案第4号

教育長 次に、議案第4号について議題とします。

説明をお願いします。

学校教育課長 「共催・後援依頼について」資料により説明。

生涯学習課長 「共催・後援依頼について」資料により説明。

文化課長 「共催・後援依頼について」資料により説明。

子ども家庭支援課長 「共催・後援依頼について」資料により説明。

教育長 では、ただいまの件について、ご質問、ご意見がございましたらお願いします。

(発言する者なし)

教育長 特にございませんでしょうか。

それでは、学校教育課の共催1件、後援2件、生涯学習課の共催1件、後援1件、文化課の後援1件、子ども家庭支援課の後援2件は、承認ということよろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

教育長 ありがとうございます。議案第4号は承認いただきました。

◎報告第1号

教育長 次に、報告事項に移ります。

この報告事項につきましては、安曇野市教育委員会の権限に属する事務の一部を教育長に委任する規則等に基づき、私が決裁を行った事務のうち報告が必要と判断したもの及び各課が進めている事業のうち特に教育委員会に報告する必要があるものについて、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第25条第3項の規定等によりご報告させていただくものです。

では、報告第1号についての説明をお願いいたします。

学校教育課長 「安曇野市入学準備金貸付基金条例施行規則の一部改正について」資料を読み上げ。

教育長 では、ただいまの件について、ご質問、ご意見がございましたらお願いします。

(発言する者なし)

教育長 それでは、報告第1号 安曇野市入学準備金貸付基金条例施行規則の一部改正については、了承ということよろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

教育長 ありがとうございます。報告第1号は了承いただきました。

◎報告第3号

教育長 次に、報告第3号について説明をお願いします。

こども園幼稚園課長 「安曇野市特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の利用者負担に関する条例施行規則の一部改正について」資料を読み上げ。

教育長 では、ただいまの件について、ご質問、ご意見がございましたらお願いします。

(発言する者なし)

教育長 特にないようですので、報告第3号 安曇野市特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の利用者負担に関する条例施行規則の一部改正については、了承ということによろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

教育長 ありがとうございます。報告第3号は了承いただきました。

◎報告第4号

教育長 次に、報告第4号について説明をお願いいたします。

佐々木課長。

こども園幼稚園課長 「安曇野市立幼稚園条例施行規則の一部改正について」資料を読み上げ。

教育長 ただいまの件について、ご質問、ご意見がございましたらお願いします。

(発言する者なし)

教育長 それでは、報告第4号 安曇野市立幼稚園条例施行規則の一部改正については、了承ということによろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

教育長 ありがとうございます。報告第4号は了承いただきました。

◎報告第5号

教育長 次に、報告第5号について説明をお願いします。

学校教育課長 「後援依頼の教育長専決の報告について」資料を読み上げ。

生涯学習課長 「後援依頼の教育長専決の報告について」資料を読み上げ。

文化課長 「後援依頼の教育長専決の報告について」資料を読み上げ。

子ども家庭支援課長 「後援依頼の教育長専決の報告について」資料を読み上げ。

学校教育課長 失礼いたしました。90ページに文化課で1行載っているのですけれども、これはすみません、42ページと重複してしまっておりまして、誤りでございますので省いていただきたいと思います。大変申し訳ございませんでした。

教育長 では、ただいまの件について、ご質問、ご意見がございましたらお願いします。

(発言する者なし)

教育長 それでは、学校教育課1件、生涯学習課3件、文化課8件、子ども家庭支援課3件の後援については、了承ということよろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

教育長 ありがとうございます。報告第5号は了承いただきました。

それでは、ここで換気等のため暫時休憩といたします。

(休憩)

教育長 再開いたします。

◎報告第6号

教育長 報告第6号について説明をお願いします。

学校教育課長 「教育部 各課報告」について資料を読み上げ。

学校給食課長 「教育部 各課報告」について資料を読み上げ。

生涯学習課長 「教育部 各課報告」について資料を読み上げ。

文化課長 「教育部 各課報告」について資料を読み上げ。

子ども家庭支援課長 「教育部 各課報告」について資料を読み上げ。

こども園幼稚園課長 「教育部 各課報告」について資料を読み上げ。

教育長 では、ただいまの件について、ご質問、ご意見がございましたらお願いします。

(発言する者なし)

教育長 それでは、報告第6号 各課の報告については、了承ということよろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

教育長 ありがとうございます。報告第6号は了承いただきました。

以降の議題につきましては非公開といたします。

(以後、非公開)

◎議案第3号 安曇野市誌編さん専門調査会（考古部会）専門調査員の委嘱等について

◎報告第2号 安曇野市心身障害児就学相談委員会に係る委員の委嘱等について

◎報告第7号 児童生徒の指定校変更等について

◎報告第8号 教育長報告

(以下、公開)

◎その他

教育長 次に、その他の事項に移ります。

他に何かございますでしょうか。

(発言する者なし)

教育長 では、以上をもちまして、本日の定例会に付議させていただいた案件は全て終了いたしました。ご協力ありがとうございました。